

## 不採算路線が再編 高齢者移動難しく

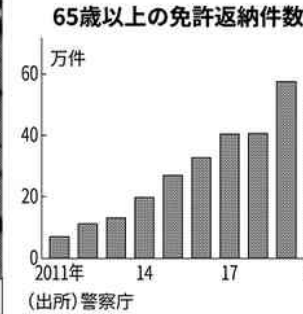
東京都心でバス路線が消えた。少子高齢化などの影響で利用者が減少する中、大都市の不採算路線に再編の波が及び寄っている。新型コロナウイルス禍の外出自粛や運転手不足が拍車をかける。運転免許の自主返納を求められる一方、貴重な交通機関を失う高齢者からは「移動手段がなくなってしまう」と不安の声が上がる。

2021年3月末、成城学園前駅と都立大学駅を結び、世田谷区と目黒区の住宅街約10キロを走る東急バス「都立01」系統が60年以上の歴史に幕を下ろした。地域の足として親しまれてきた一方、「数十年にわたって赤字が続いていた」（東急バスの担当者）。バス全体の路線網が見直されるなかで、廃止が決まった。同系統の運行区間には別路線も走るためバス停は存続する。ただ、世田谷区の岡本地区など路線

# 失われるバス 都市でも



バスが週1便しか停車しなくなった地域もある。駅前スーパへの買い物に利用していた同地区の女性(81)は今、往復



1時間ほどを徒歩で通っている。「足が弱くなった」と引越の事業者が赤字となった

つ越しも検討している」と明かした。全国の路線バスの利用者は1960年代後半をピークに減少傾向が続いており、2019年度は7割



週に1便しか停車しなくなったバス停 (東京都世田谷区)

## コロナや運転手不足 拍車

大きな影響を受けるのは高齢者だ。高齢ドライバーによる事故を背景に、運転免許証の自主返納が進み、20年は全国で65歳以上の約52万人が自主返納した。岡本地区にある自治会の荻野寿一会長(72)は「周辺に商店がないため、バスや車で他地区に買い物へ行く人が多い。高齢になり免許を返納した人もいて、一部の住民は買い物も難しくなっている」と訴える。

東急バスは20年11月から車内や停留所などで廃止の告知を始め、21年3月末に運行を終えた。ただ、東京都にはバス路線の休廃止にあたり、自治

た。廃止路線も増加傾向にあり、19年度は全国で約1500キロ分が廃止され、10年間で1万2300キロが消失した。地方が中心だったバス路線の再編や統合は都市部にも波及しつつある。都内では21年3月末に東急バスが「都立01」と渋谷駅発着の「渋谷55」の2系統で廃止や区間短縮を行い、大阪市でも20年7月に梅田駅発着の阪急バス1路線が廃止された。福岡市は06年からバス停や鉄道駅から1キロ以上離れた地域を対象に小型バスや乗合タクシーの運行を事業者が密に連携を取っている場合も多い。都市部でも自治体と事業者が協議する場をつくり、地域にとって必要な路線を協力して維持することが必要だ」と指摘する。(橋爪洗我)